

大阪大学

浅田稔教授退職記念 国際シンポジウム

2019年3月15日 13:00~

大阪大学吹田キャンパス
コンベンションセンターMOホール

参加費無料・懇親会有料 (いずれも事前参加登録制)



12:30 - 開場

13:00 - 13:10 開会あいさつ 八木 康史 (大阪大学 副学長)

13:10 - 13:40 Giulio Sandini (イタリア技術研究所 所長)
"From edge detection to social robotics (and beyond)"

13:40 - 14:10 石黒 浩 (大阪大学 教授)
「共生知能システム研究」

14:10 - 14:40 Yiannis Aloimonos (メリーランド大学 教授)
"The theory of primitives in cognitive robotics"

14:40 - 14:55 休憩

14:55 - 15:25 津田 一郎 (中部大学 教授)
「複雑系科学からの創発 AI：人工の心は現実の脳と対話可能か」

15:25 - 15:55 Rolf Pfeifer (チューリッヒ大学 名誉教授 他)
"Prof. Minoru Asada, the pioneer - Robocup, developmental science, child robots, soft materials, and the brain"

15:55 - 16:40 浅田 稔 (大阪大学 教授)
「未来共生社会のみらい」

16:40 - 16:45 閉会あいさつ

18:30 - 20:30 懇親会@ホテル阪急エキスポパーク



八木康史



Giulio Sandini



石黒浩



Yiannis Aloimonos



津田一郎



Rolf Pfeifer



主催：退職記念シンポジウム実行委員会
大阪大学大学院工学研究科 知能・機能創成工学専攻

協賛：大和ハウス工業株式会社 アビームシステムズ株式会社

参加登録ページ：
bit.ly/minoruasada



株式会社フジキン

近畿日本鉄道株式会社

株式会社ジェイテクト

日本ロボット学会



協力：株式会社インターグループ 一般社団法人 生産技術振興協会



ヒトとロボットの共生社会を目指して

認知発達ロボティクスとは、環境との相互作用から、ロボットが自ら行動を学習し、それらを発達させて、高度な認知能力を獲得していくためのロボット設計論です。(中略) 著者らが過去 20 年あまりほど行ってきた研究は (中略) ロボカップを題材にした強化学習を皮切りに認知の問題へとシフトし、さらに発達の課題へと深化していきました。感覚運動をベースに心的機能の発達へと進展し、構成的発達科学へと昇華しましたが、まだまだ足りません。特に心的機能の設計は困難を極めています。その理由の一つは、神経科学や発達心理学の知見がまだまだ不足していることに加え、発達の観点からは、身体的重要性が大きく、ハードウェアの進化が未熟という点もあります。(中略) 科学・工学そして芸術の境がない研究領域として超域 (transdiscipline) の具現としての認知発達ロボットを社会に導入し、未来共生社会を実現したいと考えています。『ロボットからヒトを識る』(大阪大学出版会、2018) より引用



浅田 稔

工学博士。大阪大学大学院工学研究科 知能・機能創成工学専攻 教授。

1982 年大阪大学大学院基礎工学研究科後期課程修了。1982 年工学部助教授。1995 年同教授。1997 年工学研究科知能・機能創成工学専攻教授。2005 年から JST ERATO「浅田共創知能システムプロジェクト」研究統括。2012 年から特別推進研究「神経ダイナミクスから社会的相互作用に至る過程の理解と構築による構成的発達科学」統括。現在、JST RISTEX「自律性の検討に基づくなじみ社会における人工知能の法的電子人格」、NEDO 次世代人工知能・ロボット中核技術開発「パーソナルインタラクションに向けた人工共感知能技術の研究開発」、NEDO 高効率・高速処理を可能にする AI チップ・次世代コンピューティングの技術開発「未来共生社会にむけたニューロモルフィックダイナミクスのポテンシャルの解明」の総括。認知発達ロボティクスの第一人者であり、ロボカップの創始者の一人。ロボカップ国際委員会元プレジデント、日本ロボット学会副会長、日本赤ちゃん学会理事、大阪大学先導的学際研究機構 共生知能システム研究センター拠点戦略顧問などを歴任。IEEE フェロー。第 5 回立石賞など受賞多数。主な著書に『ロボットという思想 - 脳と知能の謎に挑む -』(日本放送出版協会、2010 年) がある。

